



12月初頭、今年もいよいよ長岡に初雪が降りました。軒先では、朝からスノーダンプとスコップで雪かきする姿がちらほら見られます。

寒くなると公園や道路からも人が減ってしまい、なかなか近所の人との会話も減ってしまいがちですが、雪が降ると、みんな家から出てくるんですね。雪かきでつながる会話がたくさんあります。

最初の一言は「まあたいっぺえ降りましたねっか」「ほんと、頼んでもいねえのにねえ」という会話からですが、最近の家族の話や地域の話、また一緒に〇〇しましょうなんて話もしながらの雪かきになったりします。

さて、雪が降らない暮らしは快適だけど、雪が降ることによって、長岡が得たものも大きいなど感じるわけでした。少し良い解釈でまとめてみます。

【雪が生み出す3つの「あい」】

①「ふれあい」先述したように、雪かきをするために外に出てきて近所のふれあい(雪の悪

口含む) が生まれる。

②「譲りあい」 雪が降ると、極端に道幅が狭くなるので、車がすれ違いなくなる時がある。徒歩でも良く起きる状況ですが、どちらからともなく、自然とどちらかが停まって、道を譲る文化がある。

③「助けあい」 ただでさえ雪かきや雪下ろしは大変な作業だけど、高齢者や女性、まして妊婦や赤ちゃん抱えてなんでもっと大変。周りの人が手助けして、代わってあげるなど、助け合いが必須の文化がある。

「ふれあい」「譲りあい」「助けあい」人が繋がるきっかけは、あまりにも身近な物だと痛感しました。雪の結晶はその形状から、他とつながる形状をしています。雪は人のつながりを閉ざすように見えて、実は根っこで繋いでいたのかもしれないね。

余談ですが、雪が「黒」でなくて「白」でよかったなと思います。白い世界はとてもきれいですね。白はいろんな顔をもち、毎日少しだけ違った景色を見せてくれます。

長岡の白は相変わらずきれいな白ですよ。お正月にでもぜひ「あい」ある雪を楽しんでみてはいかがでしょう。